

守破離 *Homage to Marcel Duchamp* マルセル・デュシャンへのオマージュ

谷 穹・堀尾貞治・越野 潤



左 谷 穹 右 越野 潤

<展覧会概要>

展覧会名 谷穹・堀尾貞治・越野潤「守破離 *Homage to Marcel Duchamp* マルセル・デュシャンへのオマージュ」

展覧会会期 2018年6月23日（土） - 7月14日（土）

11:00-17:00

日・月は休廊

入場無料

イベント **Le Goûter** ル・グーテ

ピアノ演奏とともにデュシャンに因んだ世界を繰り広げます。

7月7日（土）①15:00~16:00 ②16:00~17:00

器：谷穹 菓子：越野潤 ピアノ：山内結実

各席8名 参加費 2000yen

会場 Galerie Ashiya Schule 兵庫県芦屋市親王塚町3-11

tel 0797-20-6629

<http://www.ashiyaschule.com> info@ashiyaschule.com

GALERIE ASHIYA SCHULE では6月23日より谷穹・堀尾貞治・越野潤の三人による展覧会「守破離 *Homage to Marcel Duchamp*」を開催いたします。

日本古来の「道」において大切にされてきた「守破離（しゅはり）」。

「守って型に着き、破って型へ出て、離れて型を生む」教えは、自らの表現を追求することで、後世に継承されていきました。

知性や想像力に訴える主張をしたマルセル・デュシャン没後50年の今年、「守破離」の精神に倣い、現代美術家3人が想像力を刺激する作品を展示いたします。

越野潤

マルセル・デュシャンの言葉で構成された2冊の本『デュシャンは語る（ちくま学芸文庫）』『マルセル・デュシャン全著作（未知谷）』と同サイズの白の矩形の作品を用いた展示構成。

デュシャンの知性偏重主義的な側面の象徴として、デュシャンの思想が物体化された「本」というものを題材に選んだ。

今展もそうであるが、私がしばしば用いる、既成品や建築パーツなど「レディ・メイド」の形を模する事によって作品の奥に内容を求める鑑賞者の見方をはぐらかす方法論は、元を辿ればデュシャンを祖とする。

デュシャンが批判の対象としたまさに網膜的な絵画である自分の作品の中にも、意外とデュシャンの蒔いた種は存在したのだ。

ちなみに私は好んで作品タイトルにダジャレを用いてきたが、デュシャンのダジャレ好きも有名である。今展でも諧謔的な展示ができればと思う。

谷穹

人がそうであるように壺には男時と女時がある

2つの壺が対峙したときに不思議と一方は男性的になり

もう一方は女性的になる

また一つの壺の中にも男性的な面と女性的な面を持っている

堀尾貞治

《L.H.O.O.Q.》は1919年にマルセル・デュシャンによって制作された修正レディ・メイド作品。

レオナルド・ダ・ヴィンチの《モナリザ》の安物のポストカードに鉛筆で口髭と顎鬚を付け加えて、《L.H.O.O.Q.》というタイトルを付けたものである。この作品が制作された1919年はちょうどレオナルドダヴィンチ没後400年にあたる年で、当時ダビンチが大変な人気となっていたこの巨匠に対する、反抗表現ともいわれている。しかし、この作品がきっかけとなり、デュシャンとダビンチには、「精神の事柄」と「観念芸術」という信念の共有が見いだされた。

今回の作品は、既成の水墨画の上に、墨をつけた石を転がした墨画「コロココロン」です。



堀尾貞治

越野 潤 Jun KOSHINO

1967 大阪府生まれ。
1991 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程修了

□主な個展

2012 「interlude」ギャラリーヤマグチクンストパウ、大阪
2013 「PERSPECTIVE」アートスペース・ゼロワン、大阪
2014 「8 WHITE RECTANGLES」ギャラリーあしやシューレ、兵庫
2016 「TRANSLUCENT/SURFACE」ギャラリーαM、東京
2017 「SOLO EXHIBITION」ギャラリーヤマグチクンストパウ、大阪など多数。

□主なグループ展

2011 「SUBTLENESS/三浦洋子・越野潤展」ギャラリーヤマグチクンストパウ、大阪
2012 「うつせみ」常懷荘、愛知
2014 「北野吉彦・越野潤展」NSA noborimachi space of art、広島
2017 「BEYOND TIME」(堀尾昭子、熊谷誠、越野潤) ギャラリーあしやシューレ、兵庫
2018 「生業 ふるまい チューニング」(小出麻代、越野潤) 京都芸術センター、京都など。

谷 穹 Tani-Q

1977 滋賀県生まれ。祖父は谷清右衛門。
2000 成安造形大学立体造形クラス卒業後、彫刻家中ハシクシゲ氏のアシスタントとして国内外の展覧会に同行。
2001 より北村寿三氏にロクロの指導を受ける。その後、家業の清右衛門陶房に入る。
2007 中世の信楽に多く見られる双胴式穴窯を築窯する。毎年改良した末、2012年現在の単室式穴窯築窯。室町時代の信楽について考察中。
2007 双胴式穴窯 築窯
2012 単室式穴窯 築窯
2014 「大学美術館を活用した美術工芸分野新人アーティスト育成プロジェクト」
2015 イッテコイ窯 築窯

□コレクション

2014 《信楽 大壺》(2014年制作)ポートランド美術館(アメリカ)

□主な個展

2005 「不在庵」ギャラリー陶夢(滋賀)
2006 「小路苑」小路苑(東京)
「LAND e SCAPE」成安造形大学ギャラリーアートサイト(滋賀)
2007 キュレーターズアイ「LAND Re SCAPE」ギャラリーマロニエ(京都)
2008 「Gundaroo」Old Saint Lukes Studio Gallery(オーストラリア)
2013 「LAND e SCAPE—現代のシツラエ」滋賀県陶芸の森 陶芸館ギャラリー(滋賀)
2015 「LAND e SCAPE」Gallery PARC(京都)
「□□□□」京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA(京都)
2016 「□□□□」ギャラリーあしやシューレ(兵庫)
「wad+」wad+(大阪)
2017 十盃十盃 plus one「信楽 風景」陶 翫粹(京都)

□企画展

2015 「これからの、未来の途中—美術・工芸・デザインの新鋭 11 人展」京都工芸繊維大学美術工芸資料館

堀尾貞治 Sadaharu Horio

- 1939 神戸市に生まれる
 1965 具体美術協会会員となり、1972年解散まで参加
 1985 「あたりまえのこと」のテーマのもとに活動を続ける。

ロ主な個展

- 1966 信濃橋画廊（大阪）
 1987 「今日の作家シリーズ№20堀尾貞治展」（大阪府立現代美術センター・大阪）
 2000 「あたりまえのこと 神出鬼没」（御殿山美術センター・大阪）
 2001 「あたりまえのこと 白紙に戻す」（ナノ・リウム・山梨）
 2002 「あたりまえのこと」（芦屋市立美術博物館・兵庫）
 2006 「マイ・ルール展」（ボーダーレス・アートギャラリーNOMA・滋賀）
 2011 「Frankfurter Positionen ATARIMAE-NO-KOTO」（ドイツ・フランクフルト）
 2012 「Explosion! Painting as Action」二日間のパフォーマンス（スウェーデン・ストックホルム）
 2014 「あたりまえのこと 今」（BBプラザ美術館・兵庫）
 2015 「Sadaharu Horio」（Axel Vervoordt Gallery・香港）
 2016 奈良・喜多ギャラリーで1000点以上の絵画制作
 他個展多数

ログループ展

- 1957 「第10回芦屋市展」以後連続出品（兵庫）
 1964 「1964京都アンデパンダン展」以後連続出品（京都市美術館・京都）
 1965 「具体新人展」（グタイピナコテカ・大阪）
 1967 「第4回国際青年美術家展」（東京）
 1970 「万国博覧会（みどり館・美術館庭「ガーデン・オン・ガーデン）」」（大阪）
 1972 「第1回芦屋ビエンナーレ」（兵庫）
 1973 「日韓現代彫刻展」（兵庫）
 1976 「アート・ナウ1976」（兵庫）
 「1976京都ビエンナーレ」（京都）
 1979 「実験34人の方法と展開」（京都）
 1981 「アート・ナウ1970～1980 WATERBAG&棒」（兵庫）
 「空間—知覚の拮がり展」（京都）
 1982 「明日の美術館を求めて—美術劇場」（兵庫）
 1983 「離脱の空間展」（名古屋市美術館・愛知）
 「第4回大阪現代アートフェア」（大阪）
 1986 「Crossing'86Japan-Hawaii—日本、ハワイ現代美術交流展」（東京）
 「第4回大阪現代アートフェア」（大阪）
 1987 「今日の作家シリーズ№20」（大阪）
 「ARTISTSCAMP87」（高松市立美術館・香川）
 1988 「物十物展」（東京・韓国）
 「位置展」（姫路市立美術館・兵庫）
 「スクエア—展」（倉敷市美術館・岡山）
 1989 「墨の世界展」（滋賀）
 1990 「兵庫の抽象3人展」（兵庫）
 1992 「具体美術協会の作家たち」（宮城県立美術館・宮城）
 1993 「第1回六甲アイランド(FW・F・O・A・P)」（兵庫）
 「Gutaisuite?展」（フランス・トゥールーズ）
 1994 「丹南アートフェスティバル」（福井）
 「心の時代 彫刻と造型」（新潟）
 1996 「アート・ナウ'96—在ることの根源へ」（兵庫）
 1997 「発信する現代美術 WE ARE HERE AGAIN」（東京）
 1998 「MATSUTANI & HORIO展」（フランス・トゥールーズ）
 1999 「ゲーム・オーバー展」（ワタリウム美術館・東京）
 2002 「未来予想図～私の人生☆劇場～」(兵庫県立美術館・兵庫)
 2005 「横浜トリエンナーレ」堀尾貞治&現場芸術集団「空気」2日間のパフォーマンス（神奈川）
 2006 「マイ・ルール展」（ボーダーレス・アートギャラリーNO-MA・滋賀）
 2007 「呼応する精神」（カールトン大学・カナダ）
 2008 「第1回姫路城現代美術ビエンナーレ2008展」（兵庫）
 2009 「InFunitum展」パフォーマンス・フォルトゥニー博物館（イタリア・ヴェネツィア）
 2011 「THE SPIRIT OF GUTAI:HORIO and MATSUTANI展」（ドイツ・フランクフルト）
 2012 「「具体」—ニッポンの前衛18年の軌跡展」（国立新美術館・東京）
 2013 「Gutai: Splendid Playground展」（パフォーマンス、グッゲンハイム美術館・ニューヨーク）
 「TAPIES:The eye of the artist展」フォルトゥニー博物館（イタリア・ヴェネツィア）
 2015 「Art Brussels2015」（ベルギー・ブリュッセル）
 「ThinkTank lab Triennale:Two Sticks /ヴロツワフ建築美術館・ポーランド・ヴロツワフ」
 2016 「アートフェア 2016BAMA」（韓国・釜山）
 「Process, Performance, Presence/ブラウンシュヴァイク・アートセンター、ドイツ・ブラウンシュヴァイク」
 「A Feverish Era in Japanese Art（オープニングパフォーマンス）」（BOZARブリュッセル美術センター・ベルギー・ブリュッセル）